

会場案内



愛知芸術文化センター

愛知県名古屋市東区東桜1-13-2
 ●地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車、東へ徒歩3分
 ●名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、東へ徒歩2分



名古屋市美術館

愛知県名古屋市中区栄2-17-25 (芸術と科学の杜・白川公園内)
 ●地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」駅下車、5番出口から南へ徒歩8分
 ●地下鉄鶴舞線「大須観音」駅下車、2番出口から北へ徒歩7分
 ●地下鉄名城線「矢場町」駅下車、4番出口から西へ徒歩10分



岡崎市図書館交流プラザ

愛知県岡崎市康生通西4-71
 ●名鉄名古屋本線「東岡崎」駅より
 (徒歩の場合) 北西へ徒歩約20分
 (バスの場合) 名鉄バス「岡崎拠点快速バス(岡崎駅・市民病院線)」又は、「日名町行き(魚町・康生町経由)」で『図書館交流プラザ』バス停下車
 ●名鉄名古屋本線「岡崎公園前」駅、愛知環状鉄道「中岡崎」駅より
 (徒歩の場合) 北東へ徒歩約15分
 (バスの場合) まちバス「東西ルート」で『図書館交流プラザ』バス停下車
 最寄の駅(名鉄)までは
 【名古屋】→(32分)→【東岡崎】、【豊橋】→(25分)→【東岡崎】

Triennale School

トリエンナーレスクール

トリエンナーレスクールは

2013年のあいちトリエンナーレに向けて、現代アートを楽しみながら学ぶレクチャーシリーズ
 第一線で活躍するアーティストや専門家をお迎えし
 現代アートをもっと身近に、おもしろく感じられるプログラムです



参加費：無料(申込不要)

第5回	2012年	10月6日(土)	14:00~15:30	愛知芸術文化センター 12階/アートスペースA
第6回		11月9日(金)	18:00~19:30	名古屋市美術館 2階/講堂 *青木野枝展(10月20日~12月16日)
第7回		12月1日(土)	14:00~15:30	岡崎市図書館交流プラザ 3階/会議室301~303
第8回		8日(土)	14:00~15:30	愛知芸術文化センター 12階/アートスペースE・F
第9回	2013年	1月19日(土)	14:00~15:30	愛知芸術文化センター 12階/アートスペースA
第10回		2月2日(土)	14:00~15:30	愛知芸術文化センター 12階/アートスペースA

*当日は各開始時刻の30分前から受付を開始し、整理券を配布します。なお、受付は先着順で行いますので、定員に達した場合は入場をお断りすることがございます。

主催：あいちトリエンナーレ実行委員会 共催：名古屋市美術館、岡崎市

愛知芸術文化センター開館20周年記念事業

問い合わせ：あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 〒461-8525名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター6階
 TEL:052-971-6127 FAX:052-971-6115 E-mail:geijutsusai@pref.aichi.lg.jp URL:http://aichitriennale.jp

2013年8月10日(土)~10月27日(日)にあいちトリエンナーレ2013を開催します!

トリエンナーレとは、3年ごとに定期的に開催される国際芸術祭です。



第5回 2012年10月6日(土) 14:00~15:30 愛知芸術文化センター 12階/アートスペースA 定員:200名

ビエンナーレがリヴァプール市へ与えたインパクト

英国の小都市リヴァプールでは1999年のビエンナーレ創立以来、72カ国279人のアーティストが新作を制作するなど、短期間のうちに一躍文化都市へと変貌を遂げました。リヴァプール・ビエンナーレがどのようにして始まり、どのようにして市民に受けとめられ、リヴァプール市を変えていったのか。創立者で、芸術監督を10年務めた、ルイス・ビッグスがその経過を語ります。

講師: **ルイス・ビッグス** (リヴァプール・ビエンナーレ元芸術監督/あいちトリエンナーレ2013キュレーター)

ルイス・ビッグス Lewis Biggs ……1952年生まれ。テイト・リヴァプール美術館の館長を1990年から2000年まで務めた。リヴァプール・ビエンナーレを創立し、2000年から2011年まで芸術監督を務めた。2014年のイギリス国内で開催されるフォークストリートトリエンナーレの芸術監督。現在、ロンドンを拠点にフリーランスのキュレーターとして活躍。



Matej Andraz Vogrinčič : Untitled 2006, St. Luke's Church, Liverpool.
Commissioned by Liverpool Biennial International 06
Photo credit: Alexandra Wolkowicz Supported by Northwest Regional Development Agency Ministry of Culture, Slovenia Visiting Arts Busker Productions

第6回 2012年11月9日(金) 18:00~19:30 名古屋市美術館2階/講堂 定員:180名

原っぱと鉄の浮遊する粒子

重い鉄を素材としながらも、その素材感を感じさせることなく、軽やかに浮かび上がるような場所や空間へと変容させる彫刻家青木野枝。そして、アーティストからの厚い信頼を受け、美術館も含めて美術の現場にも関わることの多い青木淳は、従来の建築スタイルを鮮やかに反転させてきた建築家。共同でプロジェクトも行ったことのある二人が空間の変容を語ります。

ゲスト: **青木野枝** (彫刻家/あいちトリエンナーレ2013出品作家) **青木淳** (建築家/あいちトリエンナーレ2013出品作家)
進行役: 五十嵐太郎 (あいちトリエンナーレ2013芸術監督)

青木野枝 Noe Aoki ……1958年東京都生まれ。彫刻家。東京在住。1983年武蔵野美術大学大学院造形研究科(彫刻コース)修了。2000年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。80年代初頭より鉄を素材に制作と発表を続ける。鉄板から溶断して切り出し、それを溶接して、つないで制作する。今年の秋に、名古屋市美術館と豊田市美術館で同時に個展*が開催される。
青木淳 Jun Aoki ……1956年神奈川県生まれ。建築家。東京在住。磯崎新アトリエ勤務を経て(水戸芸術館などを担当)、1991年に独立し事務所を設立。90年代後半からは公共施設を手がけ、2000年には青森県立美術館の設計コンペで最優秀賞を獲得する。奥行きがないことを逆にとった設計による、ルイ・ヴィトン名古屋(1999)は日本初の独立路面店として成功した。



Maison Ao Ao / Tokyo 2010
集合住宅(設計:青木淳建築計画事務所)のための青木野枝コミッションワーク
撮影:山本耕 協力:ギャラリー・ハシモト

*青木野枝展:名古屋市美術館(10月20日~12月16日)、豊田市美術館(10月13日~12月24日)

第7回 2012年12月1日(土) 14:00~15:30 岡崎市図書館交流プラザ3階/会議室301~303 定員:150名

現代アートがムラとシマを変えた —— 越後妻有アートトリエンナーレと瀬戸内国際芸術祭の試み

新潟県の山村で広域的に展開される越後妻有アートトリエンナーレ(2000~)、そして瀬戸内海の島々で展開される瀬戸内国際芸術祭(2010~)のアートディレクターとして、北川フラムは、アートそしてアーティストの力で、日本の風景のみならず、そこに住む人々の生活、そして日本のコミュニティをも変えてきました。その歴史を語ります。

ゲスト: **北川フラム** (アートディレクター/アートフロントギャラリー代表)
進行役: 五十嵐太郎 (あいちトリエンナーレ2013芸術監督)

北川フラム Fram Kitagawa ……1946年新潟県生まれ。アートディレクター。アートフロントギャラリー代表。越後妻有アートトリエンナーレ総合ディレクター。瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター。東京芸術大学美術学部卒業。「アントニオ・ガウディ展」(1978-79)、「アバルトヘイト否!国際美術展」(1988-90)「ファーレ立川アート計画」(94年度日本都市計画学会計画設計賞受賞)などをプロデュース。地域づくりの実践として、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(2009年度オーライ!ニッポン大賞グランプリ[内閣総理大臣賞]ほか受賞)。「水都大阪」(2009)、「にいがた水と土の芸術祭2009」、「瀬戸内国際芸術祭2010」など。2006年度芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)受賞。2007年度国際交流奨励賞・文化芸術交流賞受賞。



戸高千世子《豊島の気配》
瀬戸内国際芸術祭 2010年
写真:中村梅

第8回 2012年12月8日(土) 14:00~15:30 愛知芸術文化センター 12階/アートスペースE・F 定員:60名

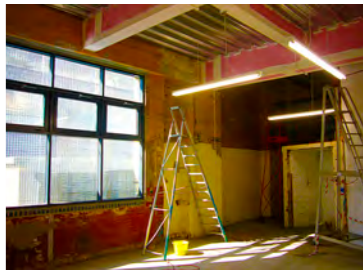
アーティストの制作環境を考える —— ロンドンの非営利団体ACME

ジョナサン・ハーヴェイは、1972年からアクメ・スタジオをロンドンに創立。ロンドン市内にある使われていないスペースを、アーティストのアトリエや展示室へと変えて利用する組織の運営を行ってきました。緑の下の力持ちとして、ロンドンの華々しいアートシーンを支えてきた、その歴史を語ります。

ゲスト: **ジョナサン・ハーヴェイ** (キュレーター/アクメ・スタジオCEO)
進行役: 住友文彦 (あいちトリエンナーレ2013キュレーター)

ジョナサン・ハーヴェイ Jonathan Harvey ……1949年イギリス生まれ。キュレーター。アクメ・スタジオの創立者で現CEO(最高経営責任者)。1977年、TSW-Television South Westテレビ番組制作会社を共同で創設し、多くのアート番組や実験的番組の共同プロデューサーとして活動。2007年、全国アーティストスタジオ提供者連合(NFASP)を創設し理事に就任。長年アーティストの活動を支援する活動を行う。
アクメ・スタジオ Acme Studios ……1972年創設。若手アーティストの活動を支援する英国チャリティー団体の大手。ロンドンを拠点に、(1)現地アーティストへのスタジオ貸出、(2)遠隔地からアーティストを招聘する滞在型制作スタジオの供与(レジデンシー・プログラム)、(3)各種アワードの授与などを通じ、過去40年で延べ5000人のアーティストを支援してきた。早くから地方自治体やコミュニティと連携し、現代アートの地域開発への関与を押し進めてきたことでも知られる。

協力: プロジェクトALLOTMENT <http://www.allotment.jp/>



建設中の「アクメ・スタジオ」
© Acme Studios

第9回 2013年1月19日(土) 14:00~15:30 愛知芸術文化センター 12階/アートスペースA 定員:200名

美術と演劇のアヴァンギャルド

アヴァンギャルドの興亡を振り返って見えてくる、演劇と美術、それぞれが秘めた「世界を変える意思」とは何か。2010年より演劇活動を行っているやなぎみわが、近年の作品を紹介し、あいちトリエンナーレでの新作の展望を語ります。

ゲスト: **やなぎみわ** (美術作家/あいちトリエンナーレ2013出品作家)
進行役: 小崎哲哉 (あいちトリエンナーレ2013パフォーミングアーツ統括プロデューサー)

やなぎみわ Miwa Yanagi ……兵庫県生まれ。美術作家。身体よりも記号化された制服が存在感を示す、1990年代の代表作《案内嬢》のシリーズに始まり、《マイ・グランドマザース》《グランドドーターズ》《寓話シリーズ》へと、やなぎのシリーズはとどまることなく、物語性や演劇性を取り入れながら、常に展開していった。2009年ヴェネツィア・ビエンナーレの日本館代表。近年は演劇公演を行い、『1924』三部作や、『PANORAMA』など、近代日本における諸芸術運動の成立・混淆をテーマとする作品を、美術館や劇場で上演。《案内嬢》のパフォーマンスプロジェクトも展開している。



やなぎみわ『1924第二部 海戦』
2011年11月(神奈川芸術劇場)

第10回 2013年2月2日(土) 14:00~15:30 愛知芸術文化センター 12階/アートスペースA 定員:200名

マダム・バタフライの家

1904年にイタリアのスカラ座で初演されたブッチーニのオペラ『蝶々夫人』。長崎を舞台とするこのオペラでは、マダム・バタフライごと蝶々夫人が住む日本家屋が主舞台となります。現在、世界中で上演されるこのオペラの舞台デザインにおいては、この日本家屋をどう表象するかが、外国人も含めた演出家の共通課題となってきました。愛知芸術文化センターでの上演を前に田尾下哲が演出の歴史とその現在を語ります。

ゲスト: **田尾下哲** (演出家)
進行役: 五十嵐太郎 (あいちトリエンナーレ2013芸術監督)

田尾下哲 Tetsu Taoshita ……兵庫県生まれ。演出家。東京大学工学部建築学科卒業。同大学院学際情報学府修士課程修了。オペラ演出をミヒヤエル・ハンベに学び、新国立劇場での外国人演出家助手や再演演出のほか、日生劇場、二期会などでも演出を担当。野田秀樹、蛭川幸雄、紀里谷和明などのプロダクションに参加し、ジャンルを超えた活動を続けている。平成21年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。



二期会創立60周年記念公演
田尾下哲演出『カヴァレリア・ルスティカーナ』
提供:公益財団法人東京二期会 撮影:三枝近志

アシスタントの募集!

トリエンナーレスクールでは、10月6日、11月9日、12月1日、12月8日、1月19日、2月2日の6回中、3回以上に参加可能で、スクール当日の準備・記録などを行っていただけるアシスタントを募集します。応募者の中から簡単な書類審査、面接の上、選考させていただきます。募集期間は8月31日(金)まで。定員は6人。ご希望の方は geijutsusai@pref.aichi.lg.jp宛にメールでお問い合わせください。